

基準3 教員及び教育支援者等

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

本校の一般科目担当教員は常勤23名(博士と修士の学位取得者は、それぞれ9名と13名)、非常勤等23名、合計46名で構成され(資料3-1-①-1, 2)、高等専門学校設置基準第6条第2項に規定されている『一般科目を担当する専任者は、5学級を有する場合は22名を下回ってはならない』の要件を満たしている。また、観点1-1-①において具体的に述べた本校の学習・教育目標(前出資料1-1-①-3, 4)を達成するために、一般科目では専門科目を学ぼううえで基礎となる科目と、社会人としての一般常識や豊かな人間性を育むために必要な科目が配置され、教員は各自の専門分野に適合した授業科目を担当しているほか、実務経験として小中高等学校での教育実績を有する常勤教員が11名、他高専での教育実績を有する常勤教員が2名在職しており、幅広い観点からの厚生補導・基礎教育体制の醸成に寄与している。さらに、平成17年度から設けた本校独自の教育制度である「工学基礎コース」、1年次の混合学級及び2年次以降の学科ごとの学級編成に対応した学級担任を自然系ならびに人文系から選出しており、幅広い教養を礎にした人間性の形成に主眼を置き、学生生活導入期の重要な学級運営を行っている。なお、「工学基礎コース」とは本校への入学意思はあるものの、志望学科が絞り込めない中学生・保護者や中学校関係者からの意見に基づいて平成17年度より導入した本校独自の制度で、1年から2年進級時に本人の意思と成績により転科が可能なコースである。

養成すべき人材像『優れた実践力と豊かな創造性を備え、国際社会で活躍できる技術者』に即して、1年次の英語科目と4・5年次の中国語科目(選択必修)においてネイティブスピーカー(非常勤)を配置し外国語教育にあたっている。また、専攻科における現代英語科目(必修)においてもネイティブスピーカー(非常勤)による教育指導がなされている。

資料3-1-①-1

「一般科目担当教員の配置」

自然系			
科目名	常勤(職名)	専門分野等	非常勤等
数学	坪川武弘(教)	数学教育, 応用数学	近藤基和
	長水壽寛(教)	数学教育, トポロジー, 博士(理学)	国村政子
	柳原祐治(准教)	確率論, 数理物理学, 修士(理学), 2B担任	清尾八郎
	井之上和代(准教)	数学教育, 代数幾何, 修士(理学)	松原邦昭
	朝倉相一(教)	応用数学, 理学修士, F4担任	
応用数学	中谷実伸(准教)	代数幾何学・無限可積分系, 博士(理学)	
物理	岡本拓夫(教)	地震学, 博士(工学)	松田和久
			青木礼三
応用物理	加藤清考(准教)	素粒子論, 場の理論, 博士(理学), 2C担任	
	池田昌弘(講)	材料物理学, 博士(理学), 2M担任	
化学	山本裕之(教)	セルロース科学, F3担任	牧野芳之
生物			安野敏勝
保健体育	島田茂(教)	運動生理学, 教育学修士, F5担任	今富満彦
	東章弘(准教)	スポーツバイオメカニズム, 健康科学, 教育学修士	山本 治
	山田孝禎(講)	老年学, 運動生理・生化学, 博士(学術)	菅野紀昭
人数計	13		11

※平成24年5月1日現在

(出典 国立福井高専要覧2012, p.27, 平成24年度開講科目調書)

資料3-1-①-2

「一般科目担当教員の配置」

人文系			
科目名	常勤(職名)	専門分野等	非常勤等
国語	大久保弦(准教)	国文学, 文学修士	前田安信(嘱託教授)
	中村吉秀(准教)	日本語学, 教育学修士, F2担任	村田千津子
中国語			王玉
			林文嫻
ドイツ語			田中まり
法学			丹尾哲
倫理社会	森芳周(准教)	哲学, 倫理学, 博士(文学), 2E担任	
政治経済	廣重準四郎(教)	西洋経済史, 経済学修士	
歴史	荻野繁春(教)	考古学, 文学修士, F1担任	竹内 亮
地理			門井直哉
音楽			石井美鶴
美術			岩本宇司
英語	小寺光雄(教)	英語教育, 文学修士	ウィルキ ウィリアム
	森貞(准教)	認知言語学, 英語学, 博士(文学), 2Ei担任	村かおり
	原口治(准教)	イギリス文学, 修士(文学)	
	吉田三郎(准教)	英語教育学, 教育学修士	
	宮本友紀(講)	英語教育, 言語コミュニケーション, 修士(教育学, 理学)	
人数計	10		12

※平成24年5月1日現在

※嘱託教授1名は, 非常勤等教員として計上した。

(出典 国立福井高専要覧2012, p.27, 平成24年度開講科目調書)

（分析結果とその根拠理由）

教育課程の編成に照らしての一般科目の常勤教員数は、高等専門学校設置基準をやや上回る程度であるが、適切な非常勤講師に依頼することにより、本校の教育目的等を達成すべく一般科目としてなすべき教育の実現は可能な配置となっている。また、常勤教員のほとんどが修士以上の学位取得者であるのに加えて、実務経験として小中高等学校での教育実績を有する常勤教員が11名、他高専での教育実績を有する常勤教員が2名在職しており、高等専門学校の工学の専門性と全人教育が効果的に機能するのに十分な質を有した教員が配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

高等専門学校設置基準第6条第3項及び本校の教育目標（前出資料1-1-①-3）に則り、機械、電気電子、電子情報、物質工学及び環境都市の各学科は（資料3-1-②-1）に示す開講科目に対し、常勤52名（博士と修士の学位取得者は、それぞれ47名と4名）、非常勤等25名、合計77名で構成されている。科目別の教員配置は、教育課程を踏まえつつ、各教員の専門分野を鑑み各学科において審議、決定されている。一部の専門科目については、より適切な教育サービスを学生に提供するため、非常勤講師に依頼している。さらに、企業・機関での実務経験を有する常勤教員が各学科に配置されており（資料3-1-②-2）、学習・教育目標に掲げる『実践的能力と論理的思考能力を身に付ける』等を涵養するにふさわしい教員配置となっている。

資料3－1－②－1

「学科ごとの専門科目担当教員の配置状況」

機械工学科			電気電子工学科			電子情報工学科			物質工学科			環境都市工学科		
科目名	常勤(役職)	専門分野	科目名	常勤(役職)	専門分野	科目名	常勤(役職)	専門分野	科目名	常勤(役職)	専門分野	科目名	常勤(役職)	専門分野
材料科学	安丸尚樹 (教授)	材料工学	電力システム	川本 昂 (教授)	電気・電子材料物性	プログラミング基礎	藤田昇 (教授)	教育工学	分析化学	小泉良之 (教授)	分析化学	水理学	廣部英一 (教授)	水工学
材料科学			パワー・エレクトロニクス			オペレーティングシステム			化学		環境科学	河川工学		河川工学
機械設計製図			情報処理システム論			認知科学			機械分析			環境都市工学実験実習		応用生体工学
工業力学	田中壽津彦 (教授)	流体力学	電子材料			制御工学			放射線物理学			化学		
振動工学			電気回路	大久保茂 (教授)	通信工学	電気回路	野村保之 (教授)	統計力学	生物化学	上島晃智 (教授)	生化学	環境都市計画論	武井幸久 (教授)	地域・都市・地区計画
アイデア設計工学			情報通信工学			情報理論			微生物学		分析化学	都市交通工学		交通・交流計画
機械製図			電気電気学			システム工学			生化学		機器分析	計画物理学		身体論
機械工作法	加藤寛敏 (教授)	材料工学	電気回路演習	山本幸男 (教授)	電子材料物性	プログラミング応用	斉藤徹 (教授)	制御工学	電気化学	津田良弘 (教授)	触媒化学	建設材料学	山田幹雄 (教授)	廃棄物利用
メカトロニクス			電子工学			情報構造論			有機化学			建設材料学		廃棄物利用
創造工学実習			電気電子応用工学			データベース			生物機能化学			建設材料学		残障地盤改良
機械工作実習			電気材料			信号解析基礎			有機材料化学			建設工学		
流体力学	藤田克志 (教授)	流体力学	電気回路演習	佐藤匡 (准教授)	制御工学	情報理論			機能材料化学			コンクリート構造学	阿部孝弘 (教授)	コンクリート工学
流体力学			制御工学			情報通信工学			電気化学			環境都市工学設計製図		破壊力学
機械設計製図			現代制御工学			情報システム基礎	青山義弘 (准教授)	計算機工学	材料工学	常光幸美 (教授)	金属表面化学	環境都市工学実験実習		
機械工学概論	松尾光恵 (教授)	工作機械	電子回路工学	電川正和 (准教授)	電子物性	情報基礎演習			物理化学			数値解析		
電子応用			デジタル回路			論理回路			無機化学			地盤工学	吉田雅博 (教授)	地震防災工学
生体技術実習			情報処理	米田知晃 (准教授)	イオン注入	計算機構成論			無機材料化学			構造工学		
機械工作実習			電子工学			工業英語			基礎材料化学			環境都市工学実験実習		
機械設計製図			計測工学			計測誤差・キタクチャ			生物化学	高山剛己 (教授)	生物電気化学	構造デザイン		
熱力学	芳賀正和 (准教授)	熱・物質移動	電子回路工学			電気電気学	高久有一 (准教授)	情報通信物理学	応用微生物学		生物学	環境保全工学	奥村光司 (准教授)	上下水道工学
伝熱工学			情報処理システム論	丸山晃生 (准教授)	数値論理学	デジタル信号処理			コンピュータ科学入門	平井嘉子 (准教授)	画像処理・理解	環境衛生工学		大規模工学
熱機関			情報処理			電子回路工学			プログラミング基礎		情報科学	地盤工学	辻子裕二 (准教授)	地盤防災工学
機械設計製図			電子回路	河原林友泰 (講師)	人工知能	創造工学演習			計測工学			測量学		空間情報学
知能機械演習	村中貴幸 (准教授)	塑性加工学	電子回路工学			計算機シミュレーション			情報ネットワーク			環境都市工学実験実習		
機械設計製図			電気回路	石塚慎一 (助教)	超電導工学	計算機構成論	西仁司 (准教授)	シミュレーション	化学工学	加藤賢 (准教授)	化学工学	防災工学		
アイデア設計工学			電気回路			電気電気学	村田知也 (助教)	知覚情報処理	反応工学		高分子材料	構造工学	辻野和彦 (准教授)	空間情報学
自動制御	丸山隆太郎 (准教授)	制御工学	電気電気学	竹本泰敏 (助教)	電力システム	電気電気学	川上忠紀 (助教)	知能ロボティクス	設計製図	西野誠一 (准教授)	無機材料化学	測量学		
C言語応用			電子回路工学			ソフトウェア工学			物理化学			環境都市工学実験実習		
知能機械演習			電子回路工学			人工知能	小松貴大 (助教)	深部学習	無機化学			環境都市工学実験実習	客月社英 (講師)	都市環境
知能機械演習	千能英介 (講師)	レーザ加工	計測工学	前多信博 (嘱託教授)		電気電気学	川上忠紀 (助教)	通信・ネットワーク工学	設計製図	松井英樹 (准教授)	有機電気化学	建築環境		
知能機械演習			電気電子設計			電気電気学			有機化学		生物有機化学	水理学		
機械設計法	金田直人 (助教)	機械設計	電気電気学			電子回路	前川公男 (嘱託教授)	工業英語	生命科学			環境都市工学実験実習	田安正茂 (助教)	海岸工学
機械学			電力システム	川崎富司 (助教)		電子回路			合成化学			海洋工学		
創造工学演習	五味伸之 (助教)	品質工学	電力システム	野尻隆行 (助教)		通信システム	松本隆雄 (助教)	環境工学概論	環境都市工学設計製図	川村敏之 (講師)	通信工学	建築設計	江本晃美 (助教)	建築設計
セサ工学			電気法規	河合賢一 (助教)		電子材料・デバイス	田邊英彦 (助教)		分子生物学		生物工学	都市・地域計画		
機械計算力学			情報処理システム論	久保良徳 (助教)		制御工学	森		環境微生物学			構造力学	前島正彦 (助教)	
機械工作実習			電気電子応用工学	藤山俊夫 (助教)		機械工学概論			情報化学	吉村忠興志 (嘱託教授)		鋼構造学		
			電子材料・デバイス	田邊英彦 (助教)		平準工学	飯田正明 (助教)		情報処理演習			施工管理	松村達彦 (助教)	
科目名	非常勤等								計測制御			建設法規	森下篤郎 (助教)	
電気工学	茂呂征一郎 (助教)								環境科学					
生産技術演習	伊坂麻美 (助教)								基礎工学概論	河合勝清 (助教)				
システム工学									品質管理	北信彦 (助教)				
ロボット工学	井上清一 (助教)													

※平成24年5月1日現在

※校長除く

※嘱託教授3名は、非常勤等教員として計上した。

(出典 国立福井高専要覧2012, p.12～p.24, 平成24年度開講科目調査)

資料3－1－②－2

「各学科の学位取得者及び企業・機関経験者の配置状況」

学科名	常勤教員数	学位取得者数		企業・機関経験者数
		修士	博士	
機械工学科	11	0	11	7
電気電子工学科	10	0	10	3
電子情報工学科	10	1	8	2
物質工学科	10	1	9	1
環境都市工学科	11	2	9	2

※平成24年5月1日現在

(この他、物質工学科の教員1名が人事交流により豊橋技術科学大学に出向中)

(出典 教員総覧データから作成)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成に照らして各学科の教員は適切に配置されている。教育課程は時代の要請に応じ、適宜見直され、適切なカリキュラムの編成がなされている。これに対する人員配置も、高等専門学校設置基準はもとより本校の目的を達成すべく、学位取得者、企業経験者を各学科に配置するな

ど教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

観点 3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

本校専攻科は、生産システム工学専攻及び環境システム工学専攻の2専攻で構成されている。これらの専攻は、本科4・5年次とともに単一の技術者教育プログラムである「環境生産システム工学プログラム」を構成しており、目指すエンジニア像及びこれを実践するために5つの大きな項目とそれらを20の小項目に細分化した学習・教育目標(JA①～JE⑤)が定められている(前出資料1-1-①-4)。これらの目標を達成するために、教員の専門性を考慮した適切な配置がなされている。また、より深い一般基礎知識と幅広い専門知識を教授するために、修士又は博士の学位を取得している教員を、担当授業科目とそれぞれの専門分野とを適合させつつ、厳格かつバランスよく配置している。なお、専攻科担当教員は、全員が大学評価・学位授与機構による7年ごとの審査で認定された者である(資料3-1-③-1, 2)。

資料3-1-③-1

専攻科開講科目(一般科目及び専門共通科目)と担当教員の配置状況

専攻科一般科目と担当教員			
科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
現代英語	原口治(准教授)	文学修士	イギリス文学
生命進化論	森芳周(准教授)	博士(文学)	哲学
東西技術史論	荻野繁春	文学修士	考古学
専攻科専門共通科目と担当教員			
科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
技術者倫理	森芳周(准教授), 吉村忠(嘱託教授), 吉川(非)	博士(文学)	哲学
創造デザイン演習	阿部孝弘(教授), 亀山, 丸山, 下條, 加藤, 田安	博士(工学)	コンクリート工学
デザイン工学	藤田克志(教授), 江本, 高麗(非)	博士(工学)	流体力学
先端材料工学	安丸尚樹(教授), 川本, 山田, 常光, 高木(非)	博士(工学)	材料科学
環境工学	奥村充司(准教授), 相川(非), 桶谷(非), 長谷川(非)	工学修士	衛生工学, 水環境学
地球環境	吉村忠(嘱託教授)	理学博士	分析化学
経営工学	中西登志夫(非)		
インターンシップ			
ものづくり情報工学	青山義弘(准教授), 亀山, 石栗, 蘆田, 吉村, 辻野, 川岸(非)	博士(工学)	計算機工学
画像情報処理	平井恵子(准教授)	博士(工学)	画像処理
連続体力学	藤田克志(教授), 村中	博士(工学)	流体力学
量子力学	加藤清考(准教授)	博士(理学)	素粒子論
地球物理	岡本拓夫(教授)	博士(工学)	地震工学
現代数学論	中谷実伸(准教授)	博士(理学)	代数幾何学
工業数理	長水壽寛(教授)	博士(理学)	数学教育
物質科学	西野純一(准教授)	博士(工学)	無機材料化学
生物学	山本裕之(教授), 川村	博士(工学)	セルロース科学

(出典 国立福井高専要覧2012, p.31, 平成24年度開講科目調書)

資料 3 - 1 - ③ - 2

専攻科開講科目(専門展開科目)と担当教員の配置状況

専攻科専門展開科目(生産システム工学専攻)と担当教員			
科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
生産システム工学実験Ⅰ	安丸尚樹(教授), 村中, 山本幸, 川本, 米田, 下條, 青山	博士(工学)	材料学
生産システム工学実験Ⅱ	安丸, 加藤寛, 藤田, 村中, 松尾, 前多, 山本, 佐藤, 加藤, 下條, 斉藤	博士(工学)	材料学
生産システム工学演習Ⅰ	金田直人(助教), 荒川, 下條	博士(工学)	繊維機械
生産システム工学演習Ⅱ	亀山建太郎(准教授), 千徳, 金田, 荒川, 下條	博士(工学)	制御工学
生産システム工学特別研究	特別研究指導教員		
設計生産工学	加藤寛敬(教授), 松尾	Ph.D	材料工学
生産材料工学	安丸尚樹(教授)	博士(工学)	材料学
エネルギー変換工学	芳賀正和(准教授), 田中	博士(工学)	熱力学
人間-機械システム	亀山建太郎(准教授), 才田(非)	博士(工学)	制御工学
計測・制御工学	佐藤匡(准教授)	博士(工学)	制御工学
電子物性工学	山本幸男(教授)	博士(工学)	電子材料物性
システムプログラム	蘆田昇(教授)	法学士	認知科学
光学基礎	西仁司(准教授)	博士(工学)	システムシミュレーション
電子機器工学	川本昂(教授), 川崎(非)	博士(工学)	電気・電子材料物性
情報通信システム	大久保茂(教授), 田辺	工学博士	通信工学
計算機システム	斉藤徹(教授), 青山	博士(工学)	情報ネットワーク
オブジェクト指向プログラミング	斉藤徹(教授)	博士(工学)	情報ネットワーク
専攻科専門展開科目(環境システム工学専攻)と担当教員			
科目名	担当教員(役職)	学位取得状況	専門分野
環境システム工学実験Ⅰ	常光幸美(教授), 高山, 加藤敏, 河村, 武井, 山田, 廣部, 田安	工学博士	金属表面化学
環境システム工学実験Ⅱ	加藤敏(准教授), 松井, 川村, 西野, 奥村, 辻子, 辻野	博士(工学)	化学工学
環境システム工学演習Ⅰ	加藤敏(准教授), 川村, 山田	博士(工学)	化学工学
環境システム工学演習Ⅱ	加藤敏(准教授), 川村, 山田	博士(工学)	化学工学
環境システム工学特別研究	特別研究指導教員		
有機反応化学	松井栄樹(准教授)	博士(薬学)	有機電気化学
生物化学工学	上嶋晃智(教授)	理学博士	生化学
触媒化学	津田良弘(教授)	博士(工学)	触媒化学
材料化学	常光幸美(教授)	工学博士	金属表面化学
動的構造デザイン	吉田雅徳(教授), 辻子, 前島(非)	博士(工学)	地震防災工学
化学プロセス工学	加藤敏(准教授)	博士(工学)	化学工学
応用微生物工学	高山勝己(教授)	博士(農学)	生物工学
環境水工学	廣部英一(教授)	博士(工学)	水工学
建設構造・材料学	阿部孝弘(教授), 山田	博士(工学)	コンクリート工学
環境都市システム工学	武井幸久(教授)	博士(工学)	都市計画
都市防災システム	辻子裕二(准教授), 吉田, 松森(非)	博士(工学)	空間情報工学
環境施設設計	奥村充司(准教授)	工学修士	衛生工学, 水環境学

(出典 国立福井高専要覧 2012, p.31, 平成24年度開講科目調査)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程の編成はもとより, 本校の目的と設定目標に則った当該科目を担当する教員配置が適切になされている。

観点 3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育活動を適切に行うために、高等専門学校設置基準に則って教員選考規則を制定し、採用や昇任選考を行っており、採用に際しては公募制とし、複数の候補者から優秀な者を選考している。年齢構成比率のパイチャート（資料 3-1-④-1）からわかるように本校では 30, 40, 50 歳代の比率がほぼ等分されている。また、本校では教員の公募案内において“教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合は、女性を積極的に採用する”旨の記載を行い、女性教員の積極的な採用に努めており（資料 3-1-④-2）、現在 7 名の女性常勤教員が在職している（資料 3-1-④-3）。女性教員の働きやすい職場環境を整えるため、学寮宿直業務の免除や育児休業取得に配慮するなどの措置を講じている。

職務上必要な資格である博士の学位についても、本校教員の取得状況は高レベルであり、専門科目（理系の一般科目を含む）を担当する常勤教員 65 名のうち、約 82% を占める 53 名が同資格を取得している。この数値は国立高等専門学校機構第 2 期中期計画における目標の 70% を上回っており、高等教育機関にふさわしい専門教育が可能となっている。

教員組織の活動がより活発になるように、内部組織規則に則り設けられた創造教育開発センター（前出資料 2-2-②-2）が主体となり、（資料 3-1-④-4）に示すように学内外において様々な F D 活動が実施されている。例えば、校内の F D 活動の一つとして公開授業週間（平成 23 年度は 6/27～7/1 に実施）を設け、教員が他の教員の授業を参観できる制度がある（資料 3-1-④-5）。

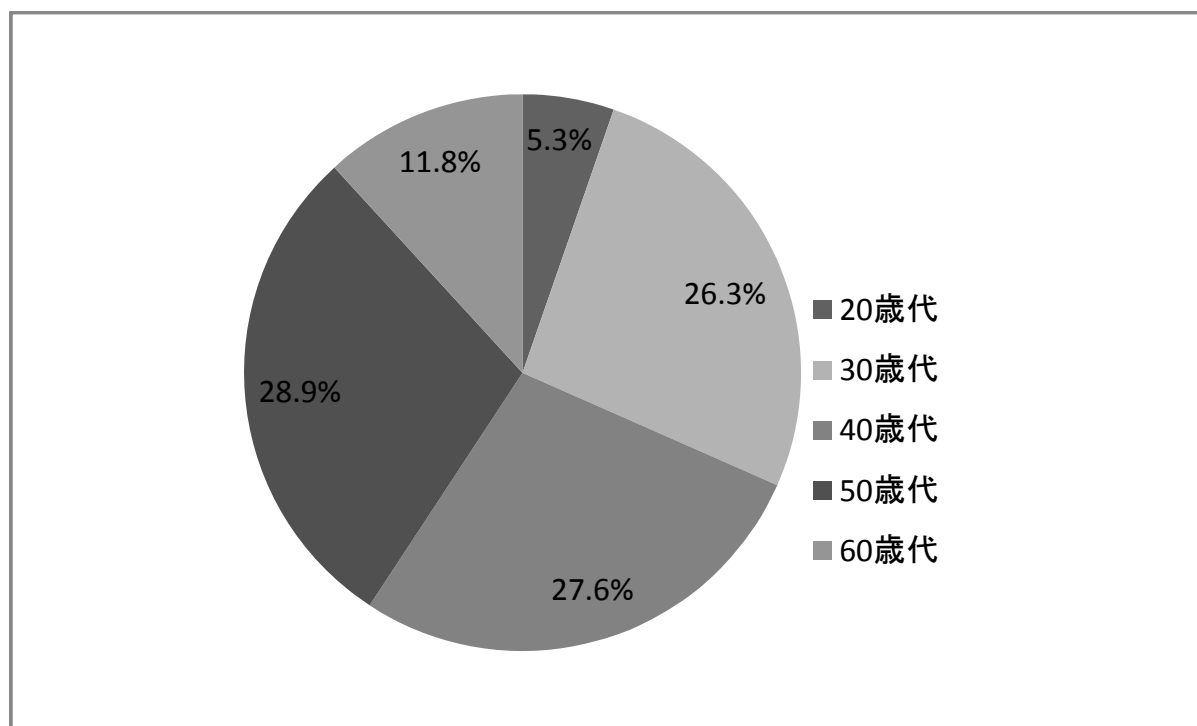
さらに、校長裁量経費による教育研究活動への支援を行っている。同経費による事業の採択は、校長ヒアリングを通して決定され（資料 3-1-④-6, 7）、採択された事業は年度末に成果報告書の提出が求められる。この内、特徴的な事業については全教員を対象にした成果報告の発表を行っている（資料 3-1-④-8）。

本校では毎年度末、優れた実績を残した教職員を対象に校長表彰を行い（資料 3-1-④-9, 10）、教職員の勤務意欲の高揚と本校の活性化に寄与している。

この他、教員組織の活動の活発化のために、国立高等専門学校機構の高専・両技術科学大学間人事交流、在外・内地研究員の各制度を活用している（資料 3-1-④-11, 12）。

資料 3 - 1 - ④ - 1

「教員の年齢構成一覧」



(出典 本校ホームページ 教育情報

http://www.fukui-nct.ac.jp/info/edu_info/data/kyousyokuin_kousei.pdf より作図)

「本校教員公募案内例」

一般科目教室自然科学系教員（数学）の公募について

1. 職名人員 1名（准教授又は講師）
2. 所属学科 一般科目教室自然科学系
3. 専門分野 数学
4. 担当科目 本科の数学科目、応用数学科目および専攻科の科目
5. 応募資格 次の(1)～(4)のいずれの条件にも該当する方
 - (1) 博士の学位を有することが望ましい。学位を有しない場合は、着任までに取得見込み、又は着任後の学位取得に熱意のある方。
 - (2) 心身ともに健康で、高等専門学校での教育・研究・地域貢献に関心を持ち、クラス担任、クラブ指導および学生寮の学生指導等に理解と熱意がある方
 - (3) 一般科目教室および数学科の運営等に協力できる方
 - (4) 専門分野における研究実績を有する方
6. 採用時期 平成 24 年 9 月 1 日 以降、可能な限り早い時期
7. 提出書類
 - (1) 採用・昇任候補者個人調書（第 1 号様式）
 - (2) 著書及び論文等一覧（第 2 号様式）
 - (3) 著書及び論文等の概要（第 3 号様式）
 - (4) 上記(3)で概要を記した主要論文・解説記事等（コピー可）
 - (5) 著書及び論文等以外の業績又は職務経験を有する方については、その内容を記したもの（第 4 号様式）
 - (6) 高等専門学校における教育・研究等についての抱負（第 5 号様式）
 - (7) 応募者について意見を伺える方の連絡先（氏名、所属、電話番号、メールアドレス等）があれば望ましい

※ 第 1 号様式～第 5 号様式は、本校ホームページ内から取得して下さい。
<http://www.fukui-nct.ac.jp/info/kyouinkoubou.html>
8. 選考方法
 - (1) 第 1 次選考 書類審査
 - (2) 第 2 次選考 第 1 次選考合格者を対象に面接審査
 （健康診断書持参のこと。旅費及び宿泊費等は自己負担となります。）
9. 応募締切 平成 24 年 5 月 21 日（月）（必着）
10. 書類提出先 〒916-8507 福井県鯖江市下司町
 福井工業高等専門学校 総務課人事労務係
 Tel : 0778-62-8202（直通）、Fax : 0778-62-2597
 ※封筒に「一般科目教室自然科学系教員（数学）公募書類在中」と朱書の上、簡易書留で郵送して下さい。応募書類は返却致しません。
11. 問合せ先 福井工業高等専門学校 一般科目教室自然科学系主任 長水壽寛
 Tel : 0778-62-8231（教員室直通）、E-mail : nagamizu@fukui-nct.ac.jp
12. その他 応募者から提供される個人情報、福井工業高等専門学校の教員を採用する目的を達するために利用するものであり、福井工業高等専門学校以外の第三者に提供、又は公表することはありません。
 なお、本公募では、教育・研究業績等の評価において同等と認められた場合には女性を積極的に採用します。

（出典 総務課）

資料3-1-④-3

「教員の男女構成一覧」

区分		校長		教員								計		計
				教授		准教授		講師		助教				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
校長		1										1	0	1
一般科目教室				9		10	1	2	1			21	2	23
専門学科	機械工学科			5		3		1		2		11	0	11
	電気電子工学科			3		4			1	2		9	1	10
	電子情報工学科			3		4				2	1	9	1	10
	物質工学科			4	1	3	1	1				8	2	10
	環境都市工学科			5		3		1		1	1	10	1	11
計		1	0	29	1	27	2	5	2	7	2	69	7	76

(出典 本校ホームページ 教育情報

http://www.fukui-nct.ac.jp/info/edu_info/data/kyousyokuin_kousei.pdf より作成)

「平成23年度FD関連行事一覧」

期日	名 称
4月1日	新任教職員オリエンテーション
6月3日	第7回フレックスシンポジウム
6月27日～7月1日	公開授業週間
7月20日	非常勤講師との教育課程に関する意見交換会
7月21日	第49回全国大学保健管理協会東海・北陸地方部会研究集会
7月26日	教職員のためのハラスメント防止に関する講演会
7月29日～8月4日	前期授業アンケート
8月1日～8月3日	高等専門学校技術職員研修
8月4日	平成23年度「就職・キャリア支援教職員研修会」
8月8日	メンタルヘルス講習会
8月26日～8月27日	第2回FD合宿研修会
8月29日～8月31日	高等専門学校新任教員研修会
8月30日～9月1日	東日本地域高等専門学校技術職員特別研修会(物質系)
9月1日	科学研究費補助金制度に関する講演会
	本科卒業生及び専攻科修了性の教育達成度に関するアンケート実施 ＜企業・大学・専攻科・公共団体宛て：平成19～21年卒業＞
9月7日～9月9日	高等専門学校教員研修(クラス経営・生活指導研修会)
9月8日～9月9日	平成23年度東海・北陸地区メンタルヘルス研究協議会
9月26日～9月27日	高等専門学校教員研修(管理職研修)
10月1日	卒業生・修了生アンケート実施＜卒業生・修了生宛：平成19～21年＞
11月9日～11月11日	東海・北陸地区国立大学法人等技術職員合同研修(複合領域コース)
11月24日	全国学生指導担当教職員研修会
12月6日	創造教育開発センター主催FD研修会
12月17日	平成23年度「就職・キャリア支援教職員研修会(専門コース第2回)」
2月4日	FD講演会「アンケートから見る福井高専の学生の特徴」
1月26日～1月27日	第8回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会
2月9日	平成23年度 学生の自殺予防に関する研修会
2月14日～2月23日	後期授業アンケート
3月3日～3月4日	平成23年度 東海・北陸地区国立高等専門学校新任教員研修会

(出典 国立福井高専要覧2012, p.35)

資料3-1-④-5

「平成22年度公開授業週間参観状況」

		参観したクラス							専門基礎(1年)		専攻科	合計
		機械	電気電子	電子情報	物質	環境都市	自然	人文	もの科学	コン入門	共通科目	
参加教員の所属	機械	2	1			1	1					5
	電気電子	2	7								1	10
	電子情報			3						1		4
	物質				6							6
	環境都市					8	1					9
	自然	1					5	2				8
	人文						2	2				4
合計		5	8	3	6	9	9	4	0	1	1	46

		参観した学年							合計				
		1年	2年	3年	4年	5年	専攻科						
参加教員の所属	機械		2	2	1			5					
	電気電子		2	4	2	1	1	10					
	電子情報	1		2	1			4					
	物質		2	1	1	2		6					
	環境都市		6	2	1			9					
	自然	3	1	2	2			8					
	人文	2	1			1		4					
合計		6	14	13	8	4	1	46					

(出典 平成22年度創造教育開発センター年次報告書)

資料3-1-④-6

「平成23年度校長裁量経費配分額一覧」

平成23年度校長裁量経費配分額一覧						
No.	代表者	学科・教室等	区分	要求プロジェクト名	要求書提出者(及び主たる使用者)	査定額(千円)
1	龜山	機械工学科	プロジェクト	機械工学科・電気電子工学科における組み込み系技術者育成教育の充実	龜山 雄太郎 准教授 五味 伸之 助教 米田 知晃 准教授 丸山 晃生 准教授	
2	石栗	電気電子工学科	プロジェクト	中学生が理屈できるソーラーカーの改修	川本 昂 教授 佐藤 匡 准教授 河原林友美 講師 石栗 慎一 助教 五味 伸之 助教	
3	高山	物質工学科	プロジェクト	遺伝子工学実験における遺伝子増幅(PCR)関連実験の充実化	上島 晃智 教授 高山 裕巳 准教授	
4	森	一般科目(人文)	プロジェクト	英語学習支援システムの構築による英語教育改革プロジェクト	小寺 光延 教授 森 貞 准教授 原口 浩 准教授 吉田 三郎 准教授 宮本 友紀 講師	
5	藤田	総合情報処理センター	プロジェクト	ウィルス対策サーバーの更新	藤田 昇 教授 早井 高子 准教授 奥田 浩士 助教 五味 伸之 助教 清水 幹郎 センター員 内藤 岳史 センター員	
6	小寺 吉村	図書館	プロジェクト	ブックハンティングの充実	図書館長 小寺光延 図書館員 吉村忠興志 図書館運営委員	
7	河原林	電気電子工学科	実験等設備	電子回路設計・製作・評価のための設備充実	前多 信博 教授 佐藤 匡 准教授 米田 知晃 准教授 河原林友美 講師	
8	村田	電子情報工学科	実験等設備	学生実験のためのロボットアーム実習における機材	有藤 敬 准教授 村田 知也 助教	
9	高山	物質工学科	実験等設備	クリーンベンチ・安全キャビネット保守点検	上島 晃智 教授 高山 裕巳 准教授 川村 健之 講師	
10	吉田	環境都市工学科	実験等設備	手回し携帯発電台「ふるる」及び小型デジタル振動計「アッロ」の整備	吉田 准教授 辻子 裕二 准教授	
11	藤田	総合情報処理センター	実験等設備	統合プリント管理システム	センター員	
要求件数				11 件	金額合計	

(出典 総務課)

資料 3-1-④-7

「平成24年度校長裁量経費によるプロジェクト募集案内」

Subject: 平成24年度校長裁量経費によるプロジェクト等の募集について(照会)

From: tukasa-i@fukui-nct.ac.jp (塚崎勇夫)

Date: 2012/06/08 10:09

To: uejima@fukui-nct.ac.jp, fujita@fukui-nct.ac.jp, tubokawa@fukui-nct.ac.jp, katanaka@fukui-nct.ac.jp, abe@fukui-nct.ac.jp

平成24年6月7日

副校長・校長補佐

各学科長

各教室主任

図書館長

各センター長

各課長

殿

校 長

平成24年度校長裁量経費によるプロジェクト等の
募集について(照会)

本校の教育研究活動の一層の充実発展を図るために、本年度も校長裁量経費をプロジェクト計画経費等として配分することといたしましたので下記のとおり募集します。

つきましては、当該経費を必要とする計画がある場合には、下記事項に留意のうえ要求書を作成し、平成24年6月28日(木)までに総務課財務係[tukasa-i@fukui-nct.ac.jp]へ提出願います。

記

1. 校長裁量経費による要求書式・部数

提出書式	提出部数
様式1 プロジェクト計画経費要求書	1 部
様式2 実験・実習用等設備経費要求書	1 部

(1) 要求趣旨

様式1: 各教員又は各学科等において、以下の事項に必要な経費であること。

- ①教育方法の改善
- ②産業界等との交流の促進
- ③ものづくり活動を通じ学生の創造性、独創性を涵養するためのプロジェクト
- ④将来的に本校の発展に貢献することを目的とした研究
- ⑤その他校長が要求書提出を認めたプロジェクト等

様式2: 各教員又は各学科等において、教育の改善を進めるために必要となる実験・実習等の設備の購入及び設備の更新に係る経費であること。

※ただし、原則として校長裁量経費申請者は、平成23年度科学研究費補助金を申請した者又は平成23年度に外部資金を獲得した者であること。

2. 説明聴取

配分にあたっては計画内容等について、必要に応じ校長ヒアリングを実施しますのでご承知置き願います。(ヒアリングの日程は後日連絡します。)

3. 報告会の開催

成果報告会は、翌年度の夏頃を予定しています。

※各様式、要求金額内訳書は、
ラクーダ(グループウェア)/電子書庫/総務課/財務係
/01総務課(財務)提出各種調書/240607校長裁量経費要求書 の中にあります。

(出典 学内メール)

資料3-1-④-8

「平成22年度校長裁量経費にかかる報告会の案内」

事務連絡
平成23年7月29日

教職員 各位

校長

平成22年度校長裁量経費にかかる報告会について（ご案内）

このことについて、下記のとおり開催しますのでご出席下さるようお願いします。
なお、当日は教員に限らず、学生・技術職員・事務職員も聴講できますので是非
ご出席くださるよう併せてお願いします。

記

- 1、報告会開催日時 平成23年9月1日(木) 13:00～14:00
(教員会議校長報告中)
- 2、発表時間 各発表10分程度
- 3、会場 大講義室
- 4、発表者
 - ① 電気電子工学科 米田 知晃 准教授
(機械、電気電子、電子情報工学科共通の計測・制御実験基盤の構築)
 - ② 総合情報処理センター(電子情報工学科) 奥田 篤士 助教
(授業支援システム)

(出典 学内メール)

資料 3 - 1 - ④ - 9

「校長表彰規則」

福井工業高等専門学校校長表彰規則

平成16年1月22日規則第3号

改正 平成19年 2月 1日規則第 1号 平成19年 3月 8日規則第 3号

(趣旨)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教職員で、職務に精励し、その功績が顕著な者に対し、その功労に報いるとともに、教職員の勤務意欲の高揚と本校の活性化を図るため、校長表彰（以下「表彰」という。）を行うものとする。

(表彰資格)

第2条 表彰は、次の各号の一に該当すると認められた者について行う。

- (1) 優れた教授方法等を開発して、教育の向上に寄与した者
- (2) 課外活動等の学生指導で実績をあげた者
- (3) 著名な学術賞を受賞した者
- (4) 有益な発明、発見、研究等を行い、業績をあげた者
- (5) 産官学連携事業で実績をあげた者
- (6) 本校の管理運営に尽力し、実績をあげた者
- (7) 事務改善のため創意工夫をこらし、事務能率の向上に寄与した者
- (8) 災害等でその危険を克服して職務を遂行した者
- (9) その他、特に他の教職員の模範と認められる行為があった者

(候補者の選考)

第3条 被表彰候補者を選考するため、校長表彰選考委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 企画室長
- (2) 教務主事
- (3) 学生主事
- (4) 寮務主事
- (5) 専攻科長
- (6) 事務部長

3 委員長は、企画室長をもって充てる。

4 委員会の庶務は、総務課が処理する。

(被表彰者の決定)

第4条 被表彰者は、委員会の推薦に基づき、校長が決定する。

(表彰の方法等)

第5条 表彰は、表彰状を贈ることにより行う。ただし、副賞を付与することがある。

2 表彰は、毎年1回年度末に行うものとする。

附 則

この規則は、平成16年1月22日から施行する。

附 則 (平成19年2月1日改正)

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則 (平成19年3月8日改正)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典 本校規則集)

資料3-1-④-10

「平成23年度校長表彰者一覧」

氏 名	職 名	推 薦 理 由
島田 茂	教 授	指導した学生が全国体育大会で好成績を上げた。
吉田 三郎	准 教 授	同
奥田 篤士	元助教	同
堀井 直宏	技術専門職員	シリカガラス材料の発明による特許の取得
鍛冶 肇	総務課長	総務課長として本校の管理運営に尽力した。
橘田 良一	学生課長	学生課長として本校の管理運営に尽力した。
佐藤 匡	准 教 授	高専の高ブランド化による女子学生増に向けた取り組みと“in situ”型工学デザイン教育の実践
西 仁司	講 師	ものづくりと地域連携による教育と指導
村田 知也	助 教	福井発！ビジネスプランコンテスト 2011 グランプリ受賞
片岡 裕一	技術専門職員	労働安全衛生関係の資格取得による貢献及び地元伝統産業への社会貢献

(出典 福井工業高等専門学校校報 Vol. 44 No. 1-1 から作成)

資料 3-1-④-1 1

「高専・両技科大間教員交流者一覧」

高専・両技科大間教員交流一覧

年度	区分	学科等名	氏名	職名	派遣機関名・期間
18	派遣	物質工学科	津田 良弘	助教授	沼津高専・1年間
19	派遣	電子情報工学科	野村 保之	助教授	豊田高専・1年間
19	受入	電子情報工学科	奥本 幸	助教授	徳山高専・2年間
20	派遣	一般科目教室	瀬川 直美	准教授	木更津高専・1年間
22	派遣	環境都市工学科	辻子 裕二	准教授	豊橋技科大・1年間
22	受入	環境都市工学科	間瀬 実郎	准教授	呉高専・1年間
24	派遣	物質工学科	佐々 和洋	助 教	豊橋技科大・1年間

(出典 総務課)

資料 3-1-④-1 2

「教員の派遣一覧」

■独立行政法人国立高等専門学校機構内地研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	派遣先大学名	研究題目
平成18 (2006)	岡田 将人	機械工学科	H18.5.1 ~H19.2.28	金沢大学大学院	CBN(立方晶窒化ホウ素)工具を用いたハードミリングに関する研究
	田安 正茂	環境都市工学科	H18.5.1 ~H19.2.28	長岡技術科学大学 大学院	人工構造物に作用する流体力の 数値計算法の開発およびその現地検証
平成22 (2010)	金田 直人	機械工学科	H22.5.1 ~H23.2.28	金沢大学大学院	合繊仮燃加工における燃トルク 発生メカニズムに関する研究

■独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員

年度	氏名	学科等	渡航期間	渡航先国名	取組名称
平成19 (2007)	丸山 晃生	電気電子工学科	H20.3.30 ~H21.3.1	オーストラリア国立大学 (ANU)	非古典論理に対する自動推論シ ステムの構築とその高専教育へ の展開

※平成23年12月31日現在

(出典 平成23年度自己点検・評価報告書, p.136)

（分析結果とその根拠理由）

教員組織の活動をより活発化するため、本校の教員募集においては公募制を採用し、年齢構成は特定の年代に偏らず、各年代にわたってバランスのとれたものとなっている。博士の学位等の資格取得率も高いレベルにあり、国立高等専門学校機構中期計画における目標を達成し、質の高い実践的な教育が行われている。

また、教員組織の活動を活性化するために、教員相互の授業参観の学校行事への導入、校長裁量経費の重点的配分、校長表彰、高専・両技術科学大学間人事交流及び在外・内地研究員の各制度を活用している。

観点 3－2－①： 全教員の教育活動に対して、学校による定期的な評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等、適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するために、国立高等専門学校機構の教員顕彰制度に基づく教員による自己評価・相互評価及び学生による評価を毎年度行い（資料 3－2－①－1）、その結果は公表されている。また、本校独自の制度として学生による授業評価も平成 14 年度からアンケート形式で行っており（資料 3－2－①－2）、今後の課題を記述した報告書を作成し、公表している（資料 3－2－①－3）。これらに基づいて総合的な評価を行い、優れた教員は機構理事長表彰の候補者として同機構に推薦するとともに、教育内容・方法等に関して改善が必要と判断される場合には指導を行っている。

校長は、毎年 1 回定期的に全教員を対象に面談を行っている。この校長面談は、全教員から校長へ事前に提出される「教職員面談シート（教員用）」（資料 3－2－①－4）に基づいて実施され、校長は当該年度における校務分掌、教育研究活動等及び前年度における自己点検・評価等の状況を個別に把握し、各教員に適切な助言を与えている。校長面談の結果は、校長表彰（前出資料 3－1－④－8、9）や校務分掌の編成等に活用されている。

「教員顕彰評価項目（抜粋）」

参考資料 01：教員の教育業績等評価**第 1 部 教員による自己評価****自己評価項目についての留意事項**

- (1) 多くの項目は 5 年間の平均値を基に記入して下さい。
- (2) 着任後 5 年未満の教員は、その年数の平均値を基に記入して下さい。
- (3) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
- (4) 小数点が出るような場合、小数点以下を四捨五入して下さい。

配点

A. 授業等の担当**[49]****1. 授業について****[6]**

- (1) 週当たりの授業単位時間数はどれだけのですか？最近 5 年間の平均値で答えて下さい。（1 単位時間；約 50 分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。）
 - 1) 15 単位時間以上：[3 点]
 - 2) 12～14 単位時間：[2 点]
 - 3) 11 単位時間以下：[1 点]
- (2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？（不定期に実施しているものを含む。）
 - 1) 進学・就職希望者、資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：[3 点]
 - 2) 進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：[2 点]
 - 3) 達成度の低い学生についてのみ実施している：[2 点]
 - 4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているのに、補習授業は行っていない：[1 点]
 - 5) 補習授業をまったく考えていない：[0 点]

2. 授業内容・方法**[11]**

- (1) シラバスはありますか？また、有効に利用していますか？
 - 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している：[3 点]
 - 2) シラバスはあり、およその目安としている：[2 点]
 - 3) シラバスはあるが、あまり利用していない：[1 点]
 - 4) シラバスはまだ作成配布していない：[0 点]
- (2) 教科書及び参考書は使用していますか？
 - 1) 自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：[3 点]
 - 2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：[2 点]

3) 自分で作った教材を用いるので、教科書・参考書は使用していない：[2点]

4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している：[1点]

(3) 教育方法の工夫

1) グループ学習、ディスカッションなど新しい教育方法を実践している：[3点]

2) 一方的な授業ではなく、双方向型の授業になるように工夫している：[2点]

3) 通常の講義形式で授業を行っている：[1点]

(4) 学生による評価の取り入れ

1) 授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている：[2点]

2) 学生による授業評価などを取り入れ、学生の要望にも対応できる授業を行っている：[1点]

3. 成績評価

[9]

(1) 成績評価基準

1) 教育目標に対する達成度で評価している：[3点]

2) クラス内あるいは学年内での相対評価で決めている：[2点]

3) 独自の評価基準あるいは上記以外の評価基準で評価している：[1点]

(2) 定期試験や小テストの答案の採点結果や評価結果などを学生本人に返却・通知していますか？（注：J A B E Eへの認定申請の際、必要とされる答案はコピーでも良い。）

1) 定期試験はもとより、小テストやレポートも採点した後、説明あるいは添削して学生に返却している：[3点]

2) 定期試験の答案のみ返却している、あるいは、小テストやレポートのみ採点して返却している：[2点]

3) 定期試験ごとに点数のみを通知する：[1点]

(3) 授業の効果の確認

1) 定期試験で確認するほか、レポートや宿題のチェック、アンケート調査、各種の実力試験、資格試験、コンテストの成績などにより確かめている：[3点]

2) 定期試験で確認するほか、卒業研究の成果、就職・進学試験の結果などにより確かめている：[2点]

3) 定期試験でのみ確認している：[1点]

4. 授業に関連する指導

[6]

(1) 欠席の多い学生にはどのように対応していますか？

1) クラス担任と密接に連絡をとりながら早めに対応している：[3点]

2) 時期をみてクラス担任と連絡をとりながら、独自でも対応している：[2点]

3) 独自に対応している：[1点]

(2) オフィスアワーの設定と活用

1) オフィスアワーを設けているが、それ以外でも学生の来室に快く応じている：[3点]

2) オフィスアワーを設けて、活用している：[2点]

- 3) オフィスアワーは特に設けていないが、学生の来室に快く応じている：[2点]
- 4) 学生の質問時間は特に設けていない：[1点]

*** 一般教科担当教員で卒業研究、留学生を担当しない場合は「一」を記入し、「B. F D活動、地域貢献」へ跳ぶ**

5. 卒業論文指導の状況等（専攻科における研究指導を含む） **[11]**

- (1) 指導学生数（職位、役職を考慮）
 - 1) 標準より多い学生数を指導している：[2点]
 - 2) 職位、役職を考慮して標準の学生数を指導している：[1点]
 - 3) 標準より少ない学生数を指導している：[0点]
- (2) テーマ（分野と設備を考慮）
 - 1) 学生一人ひとりに別々の適切なテーマを与えた：[3点]
 - 2) 分野と設備を考慮して、適切なテーマであった：[2点]
 - 3) 分野と設備を考慮して、ほぼ適切なテーマであった：[1点]
 - 4) 不適切なテーマであった：[0点]
- (3) 卒論発表時の評価（学生の資質と指導効果を評価）
 - 1) 学生一人ひとりをよく指導した結果、すべて立派な発表であった：[3点]
 - 2) 学生一人ひとりをよく指導した結果、ほぼ満足な発表であった：[2点]
 - 3) 学生の資質を考慮し、適切な発表であった：[1点]
 - 4) すべてにおいて指導の不足が見られる発表であった：[0点]
- (4) 卒業論文の評価（学生の資質と指導効果を評価）
 - 1) 学生一人ひとりをよく指導した結果、すべて価値ある論文であった：[3点]
 - 2) 学生一人ひとりをよく指導した結果、ほぼ満足な論文であった：[2点]
 - 3) 学生の資質を考慮し、まずまずの論文であった：[1点]
 - 4) すべてにおいて指導の不足が見られる論文であった：[0点]

6. 留学生の指導等（教育方法の工夫、生活指導等） **[6]**

- (1) 授業の方法等
 - 1) 留学生がいることを念頭に置いて、常に工夫を凝らして行っている：[2点]
 - 2) 留学生用に必要に応じて工夫を凝らして行っている：[1点]
 - 3) 留学生がいることに特に留意、工夫することはしていない：[0点]
- (2) 課外授業（正規の授業以外の授業）について
 - 1) 課外授業を頻繁に行っている：[2点]
 - 2) 課外授業を求めに応じて行っている：[1点]
 - 3) 課外授業は行っていない：[0点]
- (3) 生活面の指導や相談について
 - 1) 生活指導や相談を積極的に頻繁に行っている：[2点]
 - 2) 生活指導や相談は求めに応じて行っている：[1点]
 - 3) 生活指導や相談がなかったので、行っていない：[0点]

（出典 総務課）

「授業アンケート評価項目」

1. アンケート調査について

平成 22 年度の学生による授業アンケート（達成度評価）を平成 22 年の前期期末試験終了後及び 23 年の期末試験終了後に行った。

特別指導期間から特別学習期間のテスト返却後、以下に示す授業アンケートを web 上で実施した。アンケート項目は一昨年に引き続き、得点の推移を観察するため、同じ内容で行った。項目の評定も昨年度と同様、4 段階（「強くそう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」）であった。

アンケート項目は以下のとおりである。

(1) 自己評価のカテゴリ

- 1 私はこの授業の達成（到達）目標を理解していた。
- 2 私はこの授業の予習、復習を十分に行った。
- 3 私はこの授業に積極的に取り組んだ。

(2) 講義（製図を含む）の評価のカテゴリ

- 4 黒板、OHP は見やすかった。
- 5 演習問題や課題の量、内容は適切だった。
- 6 教員の説明は良く聞き取れた。
- 7 試験の内容、レベル（難易度）は適切である。

(3) 実験・実習の評価のカテゴリ

- 8 実験の内容、レベル（難易度）は適切である。
- 9 指導書は役に立った。
- 10 安全性は確保されていた。

(4) 講義、実験・実習共通の評価のカテゴリ

- 11 内容に関心、興味を持った。
- 12 内容は理解できた。
- 13 内容はシラバスと一致していた。
- 14 教員の準備は良くなされていた。
- 15 教員は学生の理解度を把握していた。
- 16 教員は授業に熱心であると思った。
- 17 この授業には総合的に満足である。
- 18 この授業の目標を達成した。

（出典 授業アンケート報告書）

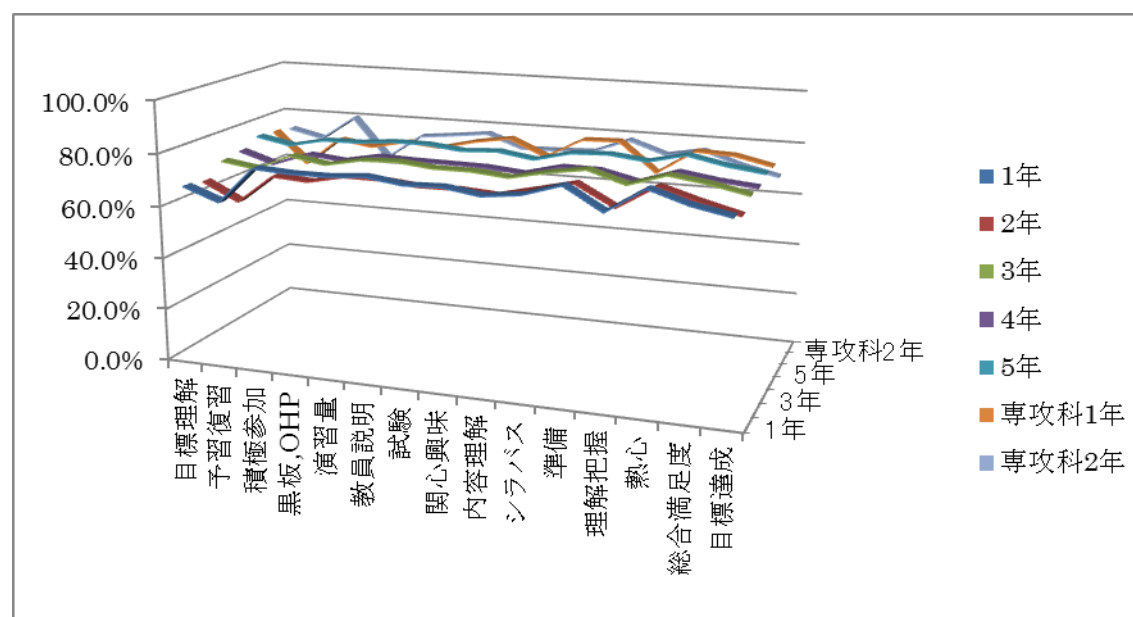
資料 3 - 2 - ① - 3

「授業アンケート評価まとめ」

2010 年度のまとめ

各項目に関する得点平均(8 実験, 9 指導書, 10 安全性は省略)

番号	項目	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	平均
1	目標理解	67.3%	66.0%	71.1%	72.2%	75.4%	74.8%	73.5%	71.5%
2	予習復習	62.3%	59.3%	69.1%	68.0%	72.8%	62.5%	70.3%	66.3%
3	積極参加	76.1%	70.2%	75.1%	72.9%	75.7%	73.5%	79.9%	74.8%
4	黒板,OHP	75.3%	69.2%	72.7%	71.4%	75.9%	71.4%	64.2%	71.4%
5	演習量	75.3%	72.1%	75.4%	74.1%	77.1%	74.3%	73.9%	74.6%
6	教員説明	76.4%	72.0%	76.0%	73.6%	77.1%	73.0%	75.3%	74.8%
7	試験	74.5%	70.7%	74.5%	73.3%	75.5%	76.4%	77.0%	74.6%
11	関心興味	74.9%	70.8%	74.5%	73.1%	76.3%	78.6%	71.9%	74.3%
12	内容理解	72.8%	69.8%	73.3%	71.8%	74.2%	72.5%	72.2%	72.4%
13	シラバス	74.4%	73.1%	76.2%	75.3%	77.7%	80.1%	72.7%	75.7%
14	準備	78.9%	76.5%	78.4%	75.2%	78.2%	80.5%	78.2%	78.0%
15	理解把握	70.7%	68.9%	74.0%	71.9%	76.6%	69.3%	73.5%	72.1%
16	熱心	80.0%	77.7%	78.6%	76.7%	80.0%	78.6%	76.1%	78.2%
17	総合満足度	75.4%	73.4%	76.5%	74.5%	77.1%	78.1%	71.3%	75.2%
18	目標達成	72.6%	69.7%	73.5%	73.2%	75.2%	74.9%	67.9%	72.4%
	2010年度の平均	73.8%	70.6%	74.6%	73.1%	76.3%	74.6%	73.2%	73.8%



授業アンケートは「強く思う(100.0%)」, 「まあまあ思う(66.7%)」, 「あんまり思わない(33.3%)」, 「全く思わない(0.0%)」の4段階評価である。各学年, 各項目の平均は, ほぼ4段階評価の上位から2番目の「まあまあ思う(66.7%)」以上であった。

(出典 授業アンケート報告書)

資料 3 - 2 - ① - 4

「教職員面談シート」

(別紙様式)

平成 24 年度 教職員面談シート (教員用)

所 属

氏 名

1. 勤務状況

本人 の 今 年 度 の 職 務 の 概 要 に つ いて	校務分掌
	授業等
	課外活動, 研究活動, 社会貢献活動等
今年度の抱負・目標等について	
昨年度の状況 (自己点検・評価) について	
職務に関する希望事項	

2. 健康状況

健康状態について	☐ 健康 ☐ やや不健康 ☐ 不健康
	(健康状態に係る特記事項)

3. その他

特記事項があれば記入してください	
------------------	--

校長所見	
------	--

(出典 総務課)

(分析結果とその根拠理由)

本校における教員の教育活動の定期的な評価は、国立高等専門学校機構の教員顕彰制度や本校独自の学生による評価制度によって行われ、評価体制が整備され、適切に実施されている。さらに、全教員を対象に毎年1回定期的に校長面談がなされ、各教員に適切な助言が与えられている。

観点3-2-②： 教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

本校専任教員の任用等(採用・昇任)に当たっては、福井工業高等専門学校教員選考規則(資料3-2-②-1)とともに、校長裁定による審査基準(訪問調査時に提示)を設けて実施・運用している。校長裁定による審査基準では、任用候補者の研究業績、教育実績、社会貢献、科学研究費補助金等を始めとする競争資金の獲得状況、そして学内候補者の場合は所属学科や学校の運営に対する寄与度等の観点から総合的に判断することが明文化されている。任用候補者の教授能力の評価を規則に則った手順に従って複数の選考委員(推薦委員会委員)により慎重に議論し、最終的に校長が任用候補者を決定している。中途退職や定年退職における教員の欠員補充による教員採用の場合においても、これと同様である。

また、専攻科担当教員の選考の場合においても選考規則(資料3-2-②-2)が明確に定められ、上述した専任教員の任用等と同様な手続きに従って選考・決定される。

「教員選考規則」

福井工業高等専門学校教員選考規則

平成13年12月20日規則第12号

改正 平成17年 3月10日規則第 1号 平成17年 7月 7日規則第10号
 平成19年 3月 8日規則第 3号 平成21年 3月30日規則第 2号

(趣旨)

第1条 この規則は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（独立行政法人国立高等専門学校機構規則第6号）第7条及び第12条の規定に基づき、福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教授，准教授，講師，助教及び助手（以下「教員」という。）の採用及び昇任に係る選考手続きに関し必要な事項を定めるものとする。

(選考基準)

第2条 教員の選考基準は、高等専門学校設置基準（昭和36年文部省令第23号）に定めるもののほか、校長が別に定めるところによる。

(選考の発議)

第3条 校長は、教員を採用し、又は昇任させようとするときは、必要に応じ当該教員が所属することとなる学科長又は教室主任の意見を聴取の上、その都度、次条に規定する推薦委員会を設置し、候補者の推薦を求めるものとする。

2 前項の場合において、校長は、原則として公募を行い、これに応募した者の中から候補者の推薦を求めるものとする。

3 公募の応募者には、次の書類を提出させるものとする。

- (1) 採用・昇任候補者個人調書（第1号様式）
- (2) 著書及び論文等一覧（第2号様式）
- (3) 著書及び論文等の概要（第3号様式）並びに該当業績の抜刷り又は写し
- (4) 著書及び論文等以外の業績又は職務経験を有する者については、その内容を記したもの（第4号様式）
- (5) 高等専門学校における教育・研究等についての抱負（第5号様式）
- (6) その他校長が必要と認めるもの

(推薦委員会)

第4条 推薦委員会は、当該学科、教室の教授3名及びその他の学科、教室の教授2名の計5名の委員をもって構成する。

2 推薦委員会の委員長及び委員は、校長が指名する。

(候補者の推薦)

第5条 推薦委員会は、第2条に規定する選考基準に基づき書類審査の上、複数の候補者について推薦順位を付し、候補者に係る次の資料を添えて校長に推薦するものとする。

- (1) 第3条第3項に定められた書類
- (2) 候補者推薦理由書（第6号様式）
（教育研究上の業績及び識見に関する意見等を記載すること）
- 2 推薦委員会は、前項の規定により推薦された候補者に対して、面接審査を実施するものとする。その際、必要に応じて校長は面接審査に加わるものとする。
- 3 推薦委員会は、前項に規定する面接審査終了後、推薦委員会報告書（第7号様式）により推薦委員会における選考の経緯及び選考理由を明らかにし、校長に候補者を推薦するものとする。
（候補者の決定）

第6条 校長は、推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し、その結果を推薦委員会に通知するものとする。

- 2 校長は、必要に応じ校外の学識経験者の意見を聴取するものとする。
（非常勤講師の任用）

第7条 非常勤講師を任用する場合は、第3条から第6条までの規定にかかわらず、当該学科等から推薦された候補者について、別に定めるところにより校長が適否を決定する。

附 則

この規則は、平成13年12月20日から施行する。

附 則

この規則は、平成17年3月10日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成17年7月7日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月30日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

（出典 本校規則集）

資料 3 - 2 - ② - 2

「専攻科担当教員選考規則」

福井工業高等専門学校専攻科担当教員の選考に関する取扱い

平成13年12月20日校長裁定

改正 平成19年3月12日

福井工業高等専門学校において教授，准教授，講師及び助教（以下「教員」という。）に専攻科を担当させようとする場合の選考については，次のとおり取り扱うものとする。

第1 校長は，教員に専攻科を担当させようとするときは，必要に応じ専攻科長の意見を聴取の上，その都度，第2に規定する推薦委員会を設置し，候補者の推薦を求めるものとする。

第2 推薦委員会は，専攻科を担当する教授5名の委員をもって構成する。

2 推薦委員会の委員長及び委員は，校長が指名する。

第3条 校長は，推薦委員会から推薦された候補者の適否を決定し，その結果を推薦委員会に通知するものとする。

附 則

この取扱いは，平成13年12月20日から実施する。

附 則（平成19年3月12日改正）

この取扱いは，平成19年4月1日から実施する。

（出典 本校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の退職に伴う新規教員の採用等については，明確に規程が定められ，これに基づいた推薦委員会の検討結果を受けて，校長が最終任用候補者を適切に決定している。

観点 3 - 3 - ①： 学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校の事務組織は，教育支援及び学生支援を行うための組織として，学生課を配置し，教育課程の展開を支援する主な部署である教務係に4名の職員を配置している。教務係における教育支援業務（資料 3 - 3 - ① - 1）は，教育課程及び学年暦，教科書，教材及び教具の取りまとめ，工場見学旅行及び校外実習の連絡調整等があり，教員と協働により業務を行っている。また，図書館には司書の資格を有する職員を3名配置（この内の2名は非常勤）し，学生への教育支援を行っている。

技術職員については、教育研究支援に携わる職員の技術業務を組織的かつ効率的に行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする教育研究支援センターに配置している。教育研究支援センターは、ものづくり分野を担当する第一技術班、制御・情報分野を担当する第二技術班、マテリアル・環境分野を担当する第三技術班の3班からなり、再雇用職員を含め14名を配置している。教育研究支援センターの主な業務（資料3-3-①-2）は、教育研究支援のための基本計画の策定、教育研究に関する技術支援、技術向上のための研修、技術発表会・講演会の企画及び立案、教育関連機器の保守・管理・操作、技術の継承及び保存、技術資料の作成、保管及び提供等であり、同センターと各学科が連携し、教育支援を行っている。

資料3-3-①-1

「福井工業高等専門学校事務組織規則（抜粋）」

第19条 学生課教務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学生課事務の連絡調整に関すること。
- (2) 入学、休学、復学、転科、転学、退学、卒業等に関すること。
- (3) 教育課程及び学年暦に関すること。
- (4) 授業及び特別教育活動に関すること。
- (5) 試験及び学業成績の整理に関すること。
- (6) 教科書、教材及び教具に関すること。
- (7) 工場見学旅行及び校外実習に関すること。
- (8) 外国人留学生に関すること。
- (9) 大学編入学に関すること。
- (10) 学籍、指導要録等の記録に関すること。
- (11) 学生の諸証明の発行に関すること。
- (12) 学生の進路に関すること。
- (13) 所掌事務に係る調査統計報告に関すること。
- (14) その他、課の所掌事務で、他の係に属しないものを処理すること。

（出典 本校規則集）

資料3-3-①-2

「福井工業高等専門学校教育研究支援センター規則（抜粋）」

（設置）

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第12条に基づき、福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に福井工業高等専門学校教育研究支援センター（以下「センター」という。）を設置する。

（目的）

第2条 センターは、本校において教育研究支援に携わる職員の技術業務を組織的かつ効率的に

行うとともに、その専門性を担保し、その職務の遂行に必要な能力及び資質の向上を図り、もって本校における教育研究の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 教育研究支援のための基本計画の策定
- (2) 教育研究に対する技術支援
- (3) 技術向上のための研修、技術発表会・講演会の企画及び実施
- (4) 教育研究関連機器の保守・管理・操作
- (5) 技術の継承及び保存
- (6) 技術資料の作成、保管及び提供
- (7) 所掌業務に係る調査統計及び報告に関すること。
- (8) その他本校における教育研究支援業務に関すること。

(技術班)

第4条 センターに第一技術班、第二技術班及び第三技術班を置く。

2 第一技術班は、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 第3条に規定する業務のうちものづくり分野に関すること。
- (2) 第一技術班の運営に関すること。

3 第二技術班は、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 第3条に規定する業務のうち制御・情報分野に関すること。
- (2) 第二技術班の運営に関すること。

4 第三技術班は、次に掲げる業務に従事する。

- (1) 第3条に規定する業務のうちマテリアル・環境分野に関すること。
- (2) 第三技術班の運営に関すること。

(職員)

第5条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 技術長
- (3) 技術班長
- (4) 技術員

2 センターに、技術専門員を置くことができる。

(センター長)

第6条 センター長は、本校の教授の中から校長が任命する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任のセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

(技術長)

第6条の2 技術長は、本校センター所属の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

(技術専門員)

第6条の3 技術専門員は、本校センター所属の技術専門職員の中から校長が任命する。

(技術班長)

第6条の4 技術班長は、本校センター所属の技術専門員又は技術専門職員の中から校長が任命する。

(技術員)

第6条の5 技術員は、本校センター所属の技術専門職員及び技術職員をもって充てる。

(職務)

第7条 センター長は、センターの業務を総括する。

2 技術長は、センター長の命を受けてセンターの業務を掌理し、各班の連絡調整及び統括を行う。

3 技術専門員は、上司の命を受けて極めて高度の専門的な技術に基づく業務に従事する。

4 技術班長は、上司の命を受けて班の業務を整理するとともに、所掌の業務に従事する。

5 技術員は、上司の命を受けて所掌の業務に従事する。

(センター運営委員会)

第8条 センターの円滑な運営を図るため、福井工業高等専門学校教育研究支援センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、別に定める。

(出典 本校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

効率的な人員配置により、少ない人数ながらもレベルの高い事務が執り行われている。また、教育活動についても、事務職員及び技術職員との連携がシステムレベル、ヒューマンリレーションレベルにおいて効果的に機能している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

本校の教育の目的を達成するために、一般科目及び専門科目の各教員は高等専門学校設置基準を満たす常勤教員が、それぞれの専門性を考慮した授業科目を担当し、バランス良く配置されている。専攻科においても教育の目的を達成するために、企業・機関等での実務経験や研究分野との適合性を総合的に判断して担当授業科目が決定されている。また、教員の新規採用や昇任についても規程が明確に定められ、適切に運用されているとともに、教員組織の活動の活発化に向けてはFD活動や校長裁量経費の重点配分等の適切な措置が講じられている。

全教員の教育活動に対する評価に際しては、国立高等専門学校教員顕彰や本校独自の学生による評価制度に加えて、校長面談による定期的な評価が実施されている。毎年度末には優れた教員を対象に校長表彰を行っており、適切な評価体制が構築・機能している。

(改善を要する点)

該当なし。

(3) 基準3の自己評価の概要

本校の目的を達成するための本科や専攻科での教育課程を展開するのに必要な一般科目教員・専門科目教員の各授業担当者は、各教員の専門性を考慮するとともに、研究内容・業績の観点からその授業内容との適合性・妥当性の確認を行って決定され、その配置もバランス良く適切である。さらに、教育支援者である事務職員及び技術職員も取得資格や専門性を考慮して適切に配置されており、教員との連携もとられている。

教員の採用及び昇任に関しては規則等を制定し、公募制によって企業・機関等での実務経験者や、博士等の資格を有する優秀な教員を採用しており、さらに女性教員の採用にも積極的に努めている。

教員組織の活動をより活発化させるため、毎年度、校長裁量経費の重点配分、校長表彰を実施するとともに、高専・両技術科学大学間人事交流及び在外・内地研究員の各制度を活用している。教員の教育活動に対する定期的な評価は、国立高等専門学校機構の教員顕彰制度、本校独自の学生による評価制度や校長面談によって適切に行われ、それは校務分掌の編成や校長表彰等に資されている。

